

コピペから見える情報リテラシー

鈴木治郎*, 松本成司*

szkjiro@shinshu-u.ac.jp, matsu@johnden.shinshu-u.ac.jp

キーワード：GUI, コンピュータリテラシー

1 はじめに

すでに小学校入学の頃にはインターネット検索が使える時代となっていた，今日の大学新入生においては，コンピュータを操作すること自体に不安を覚えるような態度を見せる学生は珍しくなった．その一方で，実際にコンピュータ演習を伴う授業を担当してみると，コンピュータを操作している割には実効的なアウトプットを伴わない利用状況をたいへん多く目にする．ここでは，そうした学生たちの現状を理解するために，コンピュータ利用時間の多くを費やすことに関わる 9 つのコンピュータ利用性向に関する設問を設定した．その分析を通じて，非効率なコンピュータ利用を学生たちにもたらしめているのは何であるのか，その端緒を私たちは得たように思う．

各設問はすべて多肢選択式で提示した．以下では，選択肢は 9 つの設問中第 3 の設問まで示し，それ以降は省略してある．完全な設問およびクロス集計の結果はポスター発表を通じて示す．

2 設問

学生たちに回答してもらった設問は以下の 9 つであり，30 件の回答を得た．

設問 1 と設問 2 の選択肢は同一であり，自分自身に関する判断（設問 2）と「コンピュータの得意な人」に関するイメージ（設問 1）との比較を試みた．

1. あなたにとってコンピュータ利用が得意な人の特徴と判断するものを以下からすべて選んでください
 - (a) マウス操作が速い
 - (b) キーボードを打つのが速い
 - (c) インターネットをよく利用する
 - (d) URL 入力によるインターネット検索ができる
 - (e) 検索が速い
 - (f) コピペ（コピー & ペースト）をよく利用する
2. 自分自身がうまくできていると判断するものを以下からすべて選んでください（選択肢は 1 に同じ）
3. あなた自身のコンピュータ利用に関する態度の積極性に関して，以下から最も当てはまるものを選んでください．
 - (a) コンピュータ利用は得意だし，積極的に活用している
 - (b) コンピュータ利用は得意だが，積極的に活用してはいない
 - (c) コンピュータ利用は得意でないが，積極的に活用している
 - (d) コンピュータ利用は得意でないし，積極的に活用してはいない
4. あなたのホームページ利用時の習慣や知識に関して以下で当てはまるものをすべて選んでください
5. メール利用における習慣に関して以下であて

- はまるものをすべて選んでください
6. レポートやブログ等の文章作成に関して以下で当てはまるものをすべて選んでください
 7. あなたのコンピュータ利用時の習慣や知識に関して以下で当てはまるものをすべて選んでください
 8. 文章作成時の習慣に関して以下で当てはまるものをすべて選んでください
 9. コンピュータの特徴であるとあなたが考えるものを以下からすべて選んでください

3 自分と他者の比較

自分自身がコンピュータ利用においてどのような行動をとっているか(設問2)と、どのような行動をとっている人がコンピュータ利用に得意であると考えるか(設問1)の結果を次表に示す。

表 1: 各操作と他者との比較(回答比率)

設問	a	b	c	d	e	f
得意な人	0.13	0.87	0.27	0.10	0.60	0.17
自分	0.33	0.30	0.67	0.20	0.33	0.43

結果からわかるように、かつてコンピュータリテラシーの第1にあげられたこともある(a)マウス操作が速いこと、またIT講習会などで必須作業であった(d)URL入力によるインターネット検索利用は、得意な人の判断につながることが伺える。また自分自身が多用しているが、得意な人の判断につながらないものに、(f)コピペをよく利用することおよび(c)インターネットをよく利用することがあげられる。とくに得意な人との判断に顕著な項目に(b)キーボード入力が入ることがあげられる。

4 活用性向と自己評価

コンピュータ利用が得意かどうかの自己判断と、積極的に活用したいと考えているかどうかの関連を次表に示す。

表 2: 得意と積極性(回答比率)

	得意である	得意でない
活用している	0.40	0.57
活用していない	0.03	0.00

結果からわかるように、ほぼ全員が積極的に活用を選んでおり、コンピュータ利用が不得意であることを理由に、積極的な活用を避けたいと考える学生はいなかった。

5 まとめ

設問1と2の比較から、コンピュータ前で時間を費やすことの多い行為(インターネット利用およびコピペ操作)は、コンピュータの得意な人とする評価につながらないことがわかった。このことはキーボード入力が速く、さらに「コンピュータの前ではあまり時間を費やさず手際よく結果を出す人」がコンピュータの得意な人であると判断していることを示唆しているように思える。また、コンピュータの積極的な活用はほぼ全員がそうしたいと考えていることから、コンピュータの利用価値を高いものと判断していることが伺える。一方で私たちは、コンピュータの得意な人とする判断においては、コピペの多用を過小評価している(設問1のf)ことも気になる。大量の情報に溺れることなく的確に必要な情報をより速く得るには、自ら得た情報の再利用・再吟味が不可欠だからである。

ともあれ、以上のアンケートからただちには、キーボード入力速度の向上につながる課題、そしてコピペに頼らないコンピュータの有効活用の方法が、コンピュータに得意感を備えた学生を育てる上で重要な教育内容となる可能性が示唆されている。

参考文献

- [1] 鈴木治郎, 松本成司, 『教育の情報化はなぜ進まないのか』, CIEC-PCカンファレンス2007報告集, 2007年
- [2] 鈴木治郎, 『情報教育におけるGUIで失われた課題』, コンピュータ利用技術研究会第3回講演集, 2006年
- [3] 鈴木治郎, 松本成司, 『GUIにおけるメニューバーの役割と普遍性』, CIEC-PCカンファレンス2009報告集, 2009年